

幼稚園における食育推進計画とその評価

岡 智代¹, 福元 芳子², 久野 一恵³, 久野 建夫⁴

Evaluation on Program for Shokuiku Promotion in Kindergarten

Tomoyo OKA, Yoshiko FUKUMOTO, Kazue KUNO, Tateo KUNO

要 旨

A 幼稚園の食育推進計画について、子どもがどの程度計画の中に定めたねらいを達成しているか（達成度）、さらに、食品に関する知識がどの程度定着しているか（知識度）の観点から評価を行った。評価は、副園長、主任教諭、担任及び級外教諭と栄養教諭による観察によって行った。その結果、次の2つのことが明らかになった。(1)「給食の雰囲気になれる」や「収穫の喜びを味わう」などの体験学習の達成度は高かったが、「はし、スプーン、茶碗の正しい持ち方」「正しい姿勢」などのマナーの定着に関する達成度は低かった。(2)3歳から4歳、5歳と学年が進行するにつれて達成度が上昇していた。これらのことから、今後次の2つの取り組みの必要性が示唆された。(1)今回達成度の低かった項目について担任と栄養教諭の連携による教育方法の改善、(2)子どもの発達に応じた到達可能な目標の設定。本研究結果を踏まえて当園の食育推進計画の見直しを行う予定である。

1. はじめに

国民の食生活をめぐる環境が大きく変化し、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、食の海外への依存、伝統的な食文化の危機、食の安全等、様々な問題が生じていることから、平成17年6月に食育基本法¹⁾が公布、翌18年3月食育推進基本計画²⁾が施行され、全国で食育に取り組まれることになった。この中で、学校においては「子どもが食について計画的に学ぶことができるよう、各学校において食に関する指導に係る全体的な計画を策定し、学校長のリーダーシップの下に関係教職員が連携・協力しながら、栄養教諭が中心となって組織的な取組を進めるように」と記載されている。

西九州大学附属三光幼稚園（以下、三光幼稚園）では、平成19年4月に5年間の食育推進計画³⁾を作成し、在園期間を通じた総合的な食育に取り組んでいる。さらに、平成21年4月には栄養教諭を配置し、より専門的な立場から取り組める体制を整えた。

幼稚園では、幼稚園教育要領⁴⁾に基づいて教育課程が編成されているが、教科書がないため、保育者の経験が重要になる。幼稚園教育要領には、食育については、「第二章 健康」の内容取り扱いの中に「健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、幼児の食生

1 西九州大学附属三光幼稚園

2 西九州大学附属三光保育園

3 西九州大学健康福祉学部健康栄養学科

4 佐賀大学文化教育学部教育学・教育心理学講座

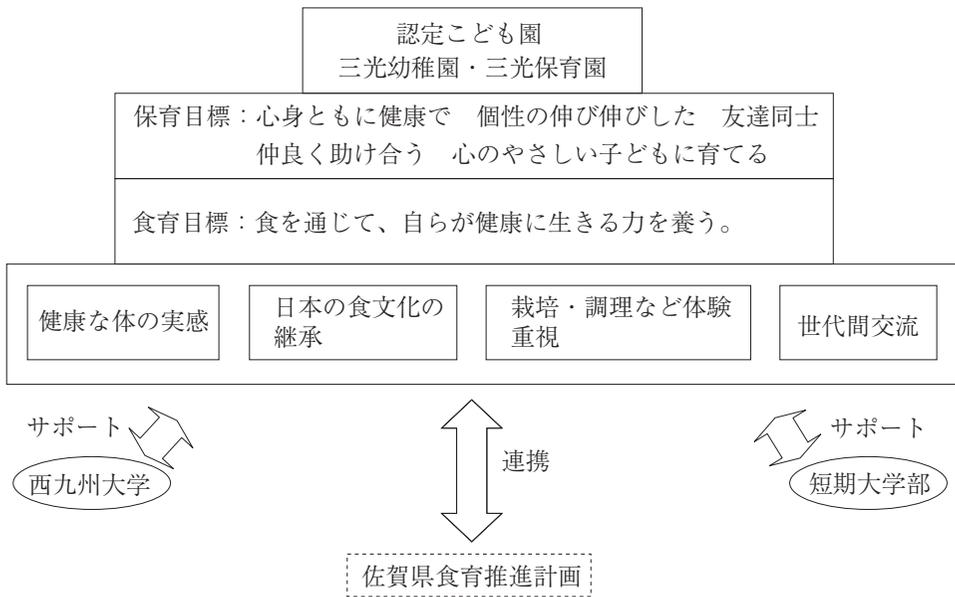


図1 三光幼稚園食育推進計画の概要

活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。」と記載されているだけで、具体的な実施内容は各園にまかされている。従って、各園で作成した食育計画とこれに基づく実践、その評価とそれに基づく見直し、いわゆるPlan、Do、Check、Actionがうまく機能するような体制づくりが必要である。

三光幼稚園の食育計画は、保育目標である「心身ともに健康で、個性の伸び伸びした、友達同士仲良く助け合う心のやさしい子どもに育てる」を達成するために、食の面からアプローチするような構成になっている（図1）。この目標を達成するために、1年を4期に分け、それぞれの期ごとに具体的な指導のねらいが決められている。今回、三光幼稚園の食育計画作成から3年目の平成21年に、それまでの実践をふりかえりこのねらいが達成されたかどうかについて評価を行い、今後の取り組み方法について考察した。

2. 評価方法

2.1 食育計画の評価の時期と方法

評価は、学年別のねらいの達成の有無と、特に園で力を入れて教育している三色食品群に関する知識の有無の2つの観点から行った。

学年別指導のねらいが達成されたかどうかについては、保育者による観察結果により判断した。平成22年3月三光幼稚園食育推進計画の学年別指導のねらいを記した評価用紙を主任教諭、各学年リーダーの教諭、級外教諭、栄養教諭の4名に配布した。この評価用紙では、それぞれのねらいについて、よくできている、だいたい出来ている、あまりできていない、できていないの4段階で評価するようになっており、この結果を、順に4点から1点と点数化し、それぞれの評価者の得点の平均をそのねらいの得点とした。学年別指導のねらいの項目は表1～3に示した。評価項目が年齢によって異なるために、学年間の比較は

行わず、それぞれの学年において3.5点以上のものを達成度が高い、2.5点以下のものを達成度が低いと判断した。

三色食品群に関する知識の取得状況は、22年3月上旬（2日から6日）に、リフレクションシート（図1）を用いて評価した。同じ保育者が園児に同じ質問を行い、その返事の様子を副園長、主任教諭、担任、級外教諭、栄養教諭のうち3～5名で観察し点数化した。観察結果は、よく覚えている、だいたい覚えている、あまり覚えていない、全く覚えていないの4段階で評価し、それぞれ4点から1点までの点数をあてはめ、複数の評価者の得点を平均して、その項目の知識度とした。年齢による比較にはKruskal Wallis検定、総合点の年齢による比較にはFriedman検定を行い、有意水準を5%とした。リフレクションシートによる評価は、食育推進基本計画の中であらかじめ予定されていたものである。

3. 結 果

3.1 学年別指導のねらいの達成状況

食育推進計画の中にある学年別指導のねらいの3歳児の到達状況を得点（達成度）として表1に示した。達成度が低かった項目は、第2期2番「夏の野菜を知る」（得点 2.3 ± 0.6 、平均 \pm 標準偏差、以下同じ）、第2期3番「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつを身につける」（ 2.5 ± 0.6 ）、第2期4番「食べ物大切さを少しでも食べられるようにする」（ 2.3 ± 0.6 ）、第3期2番「正しい姿勢で食べる習慣をつける」（ 2.5 ± 0.6 ）、第3期3番「はし・スプーン、茶碗等の正しい持ち方、使い方を身につける」（ 2.3 ± 0.5 ）、第3期8番「冬の野菜について知る」（ 2.3 ± 1.0 ）、第4期3番「食べ物に関心を持たせる」（ 2.0 ± 0.8 ）、第4期4番「春の野菜について知る」（ 2.0 ± 0.8 ）であった。年間を通じたねらいでは、「食事の正しいマナーを身につける」が 2.7 ± 0.6 ともっとも得点が低かった。一方、年間を通じたねらいの「給食になれ、楽しんで食べる」が 3.8 ± 0.5 と高く、続いて第1期1番「給食の雰囲気慣れる」（ 3.5 ± 0.6 ）、第1期2番「手を洗う習慣をつける」（ 3.5 ± 0.6 ）、3期5番「座って落ち着いて食事ができるようにする」（ 3.5 ± 0.6 ）、第4期1番「給食後の片付けをきちんと自分のできるようにする」（ 3.5 ± 0.6 ）、第4期4番「友達と食事する楽しさを味わわせる」（ 3.5 ± 0.6 ）が高かった。3歳児では、落ち着いて食べるための環境整備の達成度は高く、給食の雰囲気になれ楽しく食べられるようになっているが、あいさつや食具の正しい使い方などのマナー面の達成ができていないことが明らかになった。

4歳児の達成度を表2に示した。得点が低かった項目は、第2期4番「はし、スプーンの正しい持ち方について知る」（ 2.5 ± 0.6 ）、第2期6番「好き嫌いを減らし、残さず食べることで丈夫な体を作ることを知る」（ 2.5 ± 0.6 ）、第3期4番「正しい姿勢で食べる習慣をつける」（ 2.3 ± 0.5 ）、第3期5番「箸・スプーン、茶碗等の正しい持ち方、使い方を身につける」（ 2.5 ± 0.6 ）、第4期6番「給食を時間内に終わるようにする」（ 2.3 ± 0.5 ）であった。年間のねらいについては、1番「楽しい雰囲気の中で食事の正しいマナーを身につける」（ 2.5 ± 0.6 ）が低かった。得点が高かったのは、第4期1番「秋の野菜について知る」と第4期10番「冬の野菜について知る」が 4.0 ± 0.0 と満点で、続いて第1期1番「給食の雰囲気慣れるようにする」（ 3.8 ± 0.5 ）、第1期3番「食事の約束事を知り、給食に慣れる」（ 3.5 ± 0.5 ）、第1期4番「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつを身につける」（ 3.5 ± 0.6 ）、第1期5番「喜んで食べられるようにする」（ 3.5 ± 0.6 ）、第4期5番「友達と食事する楽しさを味わう」（ 3.5 ± 0.6 ）が高かった。4歳児においては、収穫の体験を通して食べ物に関心をもっており、友達と楽しく食事をする事ができるが、食具が正しく使えたり正しい姿勢で食べるなどマナーの達成が不十分であった。

5歳児の達成度を表3に示した。最も得点が低かった項目は、第3期2番「正しい姿勢で食べる習慣をつける」、第3期3番「はし・スプーン、茶碗等の正しい持ち方、使い方を身につける」、第3期6番「偏

表1 学年別指導のねらいの達成状況 (3歳児)

		指導のねらい	平均±SD
第1期	1	給食の雰囲気に慣れる	3.5±0.6
	2	手を洗う習慣をつける	3.5±0.6
	3	給食を楽しみに登園できるようにする	3.0±1.0
	4	「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつの仕方を知る	3.3±0.5
	5	はし、スプーンを使って自分で食べる	2.8±0.5
	6	食事の仕方を知る	3.0±0.0
	7	行事食を体験する	3.0±1.4
第2期	1	歯磨きについて知る	3.3±0.5
	2	夏の野菜を知る	2.3±0.6
	3	「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつを身につける	2.5±0.6
	4	食べ物の大切さを知り、少しでも食べられるようにする	2.3±0.6
	5	給食を喜んで食べられるようにする	3.0±0.0
	6	好き嫌いを減らし、残さず食べることで丈夫な体を作ることを知る	3.0±0.8
	7	給食の後片付けをきちんとできるようにする	2.8±0.5
第3期	1	収穫の喜びを味わう	3.0±0.8
	2	正しい姿勢で食べる習慣をつける	2.5±0.6
	3	はし・スプーン、茶碗等の正しい持ち方、使い方を身につける	2.3±0.5
	4	よく噛んで食べることの大切さを知る	2.7±0.6
	5	座って落ち着いて食事ができるようにする	3.5±0.6
	6	こぼさないで食べられるように気をつける	3.0±0.0
	7	こぼした時の後始末の仕方を知る	3.0±1.0
	8	冬の野菜について知る	2.3±1.0
第4期	1	給食後の片付けをきちんと自分でできるようにする	3.5±0.6
	2	好き嫌いを減らし、少しでも多く食べられるようにする	3.3±0.5
	3	食べ物に関心を持たせる	2.0±0.8
	4	春の野菜について知る	2.0±0.8
	5	友達と食事する楽しさを味わわせる	3.5±0.6
	6	決められた時間内に食事ができる	2.8±0.5
年間	1	給食に慣れ、楽しんで食べる	3.8±0.5
	2	楽しい雰囲気の中でたくさん食べ、健康な体づくりをする	3.3±0.5
	3	食事の正しいマナーを身につける	2.7±0.6
	4	赤、黄、緑の食品群の役割について知る	3.0±0.8
全体			2.9±0.5

よくできている：4点、だいたい出来ている：3点、あまりできていない：2点、できていない：1点の4段階で評価結果を求め評価者の得点の平均とStandard deviation (SD) で表した。

食をしないで何でも食べるようにする」、年間を通じた目標2番の「食事のマナーを身につける」がいずれも2.8±0.5と低値であったが、3歳児や4歳児より得点が高く、年齢が上がるにつれて徐々にマナーが実についていることが確認できた。一方、達成度得点が高かったのは、第2期3番「夏の野菜を収穫する」、第3期1番「収穫を楽しみ、秋の野菜を知る」、第4期5番「友達と食事する喜びを感じさせる」が4.0±0.0と満点であったのをはじめ、第1期2番「手を洗う習慣をつける」(得点3.8±0.5)、第1期3番

表2 学年別指導のねらいの達成状況（4歳児）

		指導のねらい	平均±SD
第1期	1	給食の雰囲気慣れるようにする	3.8±0.5
	2	手を洗う習慣をつける	3.3±0.5
	3	食事の約束事を知り、給食に慣れる	3.5±0.6
	4	「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつを身につける	3.5±0.6
	5	喜んで食べられるようにする	3.5±0.6
	6	食器の片付け方を知る	2.8±1.0
	7	行事食がわかる	3.0±0.8
第2期	1	歯磨きについて知る	3.3±0.5
	2	夏の野菜について知る	2.8±1.0
	3	食べ物の大切さを知り、苦手なものが少しでも食べられるようにする	2.8±0.5
	4	はし、スプーンの正しい持ち方について知る	2.5±0.6
	5	給食を喜んで食べられるようにする	3.3±0.5
	6	好き嫌いを減らし、残さず食べることで丈夫な体を作ることを知る	2.5±0.6
	7	食事の大切さを知る	2.8±0.5
第3期	1	秋の野菜について知る	3.3±1.0
	2	収穫の喜びを味わう	4.0±0.0
	3	食べ物に関心を持たせる	3.8±0.5
	4	正しい姿勢で食べる習慣をつける	2.3±0.5
	5	はし・スプーン、茶碗等の正しい持ち方、使い方を身につける	2.5±0.6
	6	よく噛んで食べることの大切さを知る	2.8±0.5
	7	種々の食品を体験することにより、食べられる食品が増える	3.0±0.0
	8	嫌いなものを少しでも食べるようにする	3.0±0.0
	9	身の回りを清潔にすることを知る	3.0±0.8
	10	冬の野菜について知る	4.0±0.0
第4期	1	箸、スプーンの使い分けができる	3.0±0.0
	2	食べ物の働きについて知る	2.8±0.5
	3	色々な食品を食べようと、嫌いなものを少しでも食べるようにする	3.0±0.0
	4	落ち着いて食事ができるようにする	2.8±0.5
	5	友達と食事する楽しさを味わわせる	3.5±0.6
	6	給食を時間内に終わるようにする	2.3±0.5
年間	1	楽しい雰囲気の中で食事の正しいマナーを身につける	2.5±0.6
	2	健康、生活に必要な習慣を身につける	2.8±0.5
	3	食べものの役割について知る	3.0±0.0
	4	赤、黄、緑の食品群の役割を知る	2.8±0.5
全体			3.0±0.5

よくできている：4点、だいたいできている：3点、あまりできていない：2点、できていない：1点の4段階で評価結果を求め評価者の得点の平均とStandard deviation（SD）で表した。

表3 学年別指導のねらいの達成状況 (5歳児)

		指導のねらい	平均±SD
第1期	1	給食ができる過程に関心をもつ	3.0±0.0
	2	手を洗う習慣をつける	3.8±0.5
	3	「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつを身につける	3.5±0.6
	4	はし・スプーンの正しい持ち方について知る	3.0±0.0
	5	食べ物に関心を持つ	3.5±0.6
	6	食事のマナーを見直す	3.0±0.0
	7	喜んで食べられるようにする	3.5±0.6
	8	行事食が分かる	3.5±0.7
第2期	1	歯磨きをする	3.3±0.5
	2	噛むことの大切さを知り、よくかんで食べる	3.0±0.0
	3	夏の野菜を収穫する	4.0±0.0
	4	育てることの大切さについて考える	3.3±0.5
	5	給食を喜んで食べられるようにする	3.5±0.6
	6	食べ物の役割を知り、少しでも食べられるようにする	3.5±0.6
	7	好き嫌いを減らし、残さず食べることで丈夫な体を作ることを知る	3.8±0.5
	8	作物、畑、栄養について考える	3.3±0.6
第3期	1	収穫を楽しみ、秋の野菜を知る	4.0±0.0
	2	正しい姿勢で食べる習慣をつける	2.8±0.5
	3	はし・スプーン、茶碗等の正しい持ち方、使い方を身につける	2.8±0.5
	4	よく噛んで食べることの大切さを知る	3.3±0.5
	5	食事の行儀を知り、楽しく食事ができるようにする	3.3±0.5
	6	偏食をしないで何でも食べるようにする	2.8±0.5
	7	身体と食物の関係に関心を持たせる	3.5±0.6
第4期	1	冬の野菜について知り、収穫を楽しむ	3.0±0.8
	2	食べ物の働きや体のしくみについて知る	3.3±0.5
	3	食事のマナーを再確認する	3.0±0.8
	4	箸、スプーンの使い分けができる	3.3±0.5
	5	友達と食事する喜びを感じさせる	4.0±0.0
	6	偏食しないで何でも食べるようにする	3.0±0.0
	7	給食を決められた時間内に食べ終わるようにする	3.0±0.8
年間	1	食べものの大切さを知る	3.5±0.6
	2	食事のマナーを身につける	2.8±0.5
	3	友達と楽しく食事ができるようになる	3.8±0.5
	4	身体と食物の関係を知る	3.3±0.5
	5	赤・黄・緑の食品群に分類できる	3.3±0.5
全体			3.3±0.4

よくできている：4点、だいたい出来ている：3点、あまりできていない：2点、できていない：1点の4段階で評価結果を求め評価者の得点の平均とStandard deviation (SD) で表した。

「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶を身につける」(3.5±0.6)、第1期5番「食べ物に関心を持つ」(3.5±0.6)、第2期7番「好き嫌いを減らし、残さず食べることで丈夫な体を作ることを知る」(得点3.8±0.5)、年間目標3番「友達と楽しく食事ができるようになる」(得点3.8±0.5)であった。5歳児になっても、食具の正しい使い方と好き嫌いの問題は残っているが、栽培活動を楽しみ友達と楽しく食事ができるようになっていることが確認できた。

年齢が上がるにつれて、達成度の高い項目が増え、達成度の低い項目が少なくなり、その結果として、全体を通じた得点は、3歳2.9±0.5、4歳3.0±0.5、5歳3.3±0.4と年齢が上がるにつれて高くなっていった。

3.2 リフレクションシートによる三色食品群についての学年による知識の違い

食育で最も力を入れている三色食品群に関する知識の定着状況は、保育者がリフレクションシート(表4)を用いて評価した(表5)。知っている野菜の名前、食品が赤、黄、緑の3つに分類できること、偏った食事をするとどうなるか、バランスよく食べることが大事であることは、全学年を通じてよく知っていたが、野菜の旬、それぞれの色のグループに入る食べ物の名前、それぞれの色の食べ物の働きは、3歳児はあまり知らないが、学年が進行するにつれて知られるようになっていった。冬に収穫する野菜についてのみ、5歳児より4歳児のほうがよく知っていた。

4. 考 察

学年別のねらいの達成状況については、「給食の雰囲気になれる」や「収穫を楽しむ」のような体験型の得点が高く、「はしやスプーンの正しい使い方」や「いただきますやごちそうさまの挨拶」など食事のマナーに関するものの得点が低かった。3歳児が食事前後の挨拶が低かったのは、食事前は全員そろってクラス単位で「いただきます」の挨拶をするが、食事後の「ごちそうさま」の挨拶は、食べ終わるスピードが個人によって異なり、クラス単位で後片付けを行う期間が長いことから、挨拶の徹底ができなかったためと考えられる。4歳児以上になると、下膳の際に指導できるようになり、また、5歳児の様子を4歳児が真似をするというよい影響も見られるので、今後、これらの機会を活用した挨拶指導を意識的にを行い、園全体で食後の挨拶の定着をはかりたいと考えた。

4歳児で「給食を時間内に終わるようにする」の得点が特に低いのは、苦手なものを食べることができなかつたり、小食児が目立つこと、食事に集中できていない遊び食べや、片づけも集中してできていない子どもがいることが原因だと考えられる。また、3歳児、4歳児に共通して、「正しい姿勢で食べる習慣をつけること」と、「はし・スプーン、茶碗等の正しい持ち方、使い方を身につけること」が課題としてあげられた。そのためには、日々の給食の時間を十分に利用した全職員による繰り返しの教育によるマナーの定着の必要性があることが明らかになった。同時に、特別な配慮の必要な園児に対しての個人指導のプログラム作りを担任と栄養教諭が協力して進めたいと考えた。

三色食品群に関する知識の定着度は、幼児は、記入式のアンケートによる評価ができないため、保育者によるリフレクションシートを用いた観察結果により判断した。食べ物を、赤・黄・緑に分類できるということは定着していた。そして、それぞれのグループにどんな食品があるかについては、学年が上がるごとに知識が増えていくなると言えそうだ。しかし、それぞれの働きについては理解ができていないので、理解が深まるように成長に合わせたアプローチの仕方を考えたいと考えた。たとえば、3歳児では、まず三色そろえるという行動を身につけさせ、総合的な理解力が備わる年齢になったら、理由を教えるということのようなことである。このために、子どもの観察を十分に行い、「なぜ」という疑問を持ったときにタイミ

表4 リフレクションシート

A. 栽培活動に関して

①お野菜のこともきいていい？
どんな野菜を知ってる？

--	--	--	--

① 幼稚園でも育てたけど、夏に収穫して
食べる野菜は何があるか知ってる？

--	--	--	--

② よく知ってるね。じゃあ、冬に収穫して
食べる野菜は何があるかな？

--	--	--	--

★その他のつぶやき★

⑦ 緑の食べ物はどうな働きをしてくれる？

--	--	--	--

⑧ 赤だけ食べたり、黄だけ食べたり、していると、
体はどうなる？

--	--	--	--

⑨ そうね。赤、黄、緑はバランスよく食べることが
大切なね。

--	--	--	--

★その他のつぶやき★

B. 食べ物について

① 食べ物の話をするよ。
食べ物は3つの色に分けることができるんだけど、
何と何と何？

--	--	--	--

② そうね。じゃあ、赤はどんな食べ物がある？

--	--	--	--

③ 赤の食べ物はどんな働きをしてくれる？

--	--	--	--

④ じゃあ、黄色はどんな食べ物がある？

--	--	--	--

⑤ 黄色の食べ物はどんな働きをしてくれる？

--	--	--	--

⑥ じゃあ、緑はどんな食べ物がある？

--	--	--	--

全く覚えていない
あまり覚えていない
だいたい覚えている
よく覚えている

全く覚えていない
あまり覚えていない
だいたい覚えている
よく覚えている

表5 リフレクションシートを用いた三色食品群に関する学年による知識の違い*

項 目	3歳児	4歳児	5歳児	Kruskal Wallis検定
	平均±SD**	平均±SD**	平均±SD**	P value
どんな野菜を知っているか	3.6±0.5	3.8±0.5	3.9±0.3	0.118
夏に収穫して食べる野菜は何かがあるか	1.8±0.6	2.5±0.7	3.7±0.5	0.000
冬に収穫して食べる野菜は何かがあるか	2.3±0.9	3.4±0.8	2.8±0.7	0.014
食べ物の働きによる三色分けの色は何か	3.7±0.7	3.9±0.3	3.7±0.5	0.279
赤にはどんな食べ物があるか	2.7±0.7	3.2±0.6	3.6±0.5	0.002
赤の食べ物の働きは何か	2.1±0.8	2.9±0.9	3.1±0.5	0.012
黄色にはどんな食べ物があるか	2.4±0.5	3.2±0.4	3.5±0.6	0.000
黄色の食べ物の働きは何か	2.4±0.8	2.4±1.0	3.4±0.5	0.001
緑はどんな食べ物があるか	2.5±0.5	3.6±0.5	3.9±0.4	0.000
緑の食べ物の働きは何か	2.5±0.7	3.2±1.0	3.3±0.5	0.037
赤だけ食べたり、黄だけ食べたりしていると体はどうか	2.6±0.5	3.0±0.7	3.0±0.6	0.296
赤、黄、緑はバランスよく食べることが大切である	2.6±0.5	2.9±0.4	3.2±0.6	0.098
全 体	2.6±0.5	3.2±0.5	3.4±0.3	0.000***

*よく覚えている：4点、だいたい覚えている：3点、あまり覚えていない：2点、全く覚えていない1点として、評価者の平均点で表示。

**SD：Standard deviation

***Friedman 検定

ングよく知識を提供できるような体制を整えたい。さらに、「なぜ」という疑問を持つような場を設定したい。

夏の野菜と冬の野菜の名前を知っているかということについて4歳と5歳で得点が逆転していたのは、栽培活動と関係している。5歳児は夏に栽培活動を行い、4歳児は冬に栽培活動を行ったため、それぞれ体験した野菜の名前を覚えていたものと考えられる。このことは、栽培活動の重要性を示すものと考えられる。しかしながら、無制限に栽培活動を増やすことはできないので、栽培に直接関わっている子どもだけでなく栽培していない学年の子どもに対しても、栽培している畑の様子に目を向けさせたり、給食で使用したときなどを利用して話しかけることなどで、経験の共有を試みたい。さらに、3歳児には、来年栽培するという興味や期待感を持たせる働きかけを続けることで、実際に栽培に従事したときの感動を大きくし、体験を大きくしたいと考えている。

教育目標においては幼児の発達過程に添った計画になっていないことがあることが報告されている⁵⁾。食育においても、学年ごとのねらいは、発達過程に応じて一貫性のあるものにする必要がある⁶⁾。本研究における食育の到達得点が3歳児において2.9と低値であったことは、当園の食育推進計画における3歳児のねらいが高すぎた可能性も考えられる。働きかけの工夫と同時に年齢相応の達成目標に見直す必要があることが示唆された。今回、評価を行うことで次の改定に向けて、取り組むべき課題が明らかになった。実際の子どもの発達を観察することで、達成可能な目標を設定し、その目標を達成するための効果的

な体制づくりと教育方法などを盛り込んだ改正を行う予定である。

5. 参考文献

- 1) 食育基本法、平成17年6月
- 2) 食育推進基本計画、平成18年3月
- 3) 三光幼稚園・三光保育園食育推進計画、平成19年4月
- 4) 幼稚園教育要領、文部科学省、平成20年
- 5) 門松良子、井戸和秀、幼稚園教育課程と指導計画との関係、岡山大学教育実践総合センター紀要、89-100、2006
- 6) 財団法人子ども未来財団、保育所における食育の計画づくりガイド～子どもが「食を営む力」の基礎を培うために～、平成19年11月